

## 御神幸祭（夏の大祭）

祭典日：7月31日～8月2日

御神幸祭は夏の大きな祭りであり、宇佐神宮で最も人気のあるお祭りです。元々は平安時代（794-1185）にお祓の儀式として始まり、今では夏のお祓の伝統とご祭神による近くの地域への儀式的な訪問を組み合わせています。様々な儀式や賑やかな神輿の行列に加えて、伝統的な音楽や踊りのパフォーマンスが行われ、食べ物、飲み物、ゲームの露店も用意されています。

### 7月31日：出発の行列

初日には、宇佐神宮のご祭神（八幡神、比売大神、神功皇后）は、上宮（上の社）の御殿から3つの神輿に儀式的に移され、約250名の行列と一緒に、一時的にご祭神を安置する場所である頓宮に向けて出発します。道案内の神である猿田彦の姿をした氏子が先導し、音楽家、色とりどりの衣装を着た子供たち、伝統的な正装をした地域の代表者、宇佐神宮の神職が続きます。

神輿の担ぎ手たちは祓所の近くの広場に向かって階段を降り、そこで彼らの神輿を3回転して高く持ち上げます。ここからは、宮大工が神輿の支柱に乗ります。これは、祭りの途中で神輿の修理が必要になることもあった、神輿の順序を決めるための「争い」の習慣から続いている伝統です。行列は川を渡って仲見世という商店街を訪れ、頓宮に向かいます。神輿が到着すると、古くからある菅貫神事という儀式が行われ、ご祭神は頓宮の御殿に移されて2泊3日そこに留まります。

### 8月1日：流鏝馬神事

御神幸祭の2日目の午後、頓宮の近くにある大尾神社への参道は、2019年にお祭りの一環として取り入れられた流鏝馬神事に使用されます。この神事は、約850年の歴史を持つ流鏝馬の小笠原流の代表者によって行われます。神々への奉納として、鎌倉時代（1185-1333）の戦士の格好をした訓練された騎手が270メートルの道を駆け抜け、3つの標的に矢を放ちます。

同じ日に、若宮神社のご祭神は、小規模の儀式的な訪問として宇佐神宮の境内と仲見世を通ります。

### 8月2日：帰りの行列

最終日の夕方、3つのお神輿は同じ行列を伴って最初の日の道をたどり、上宮に戻ります。ご祭神はそれぞれの聖域に戻され、次に祈りの儀式が行われます。災いや疫病を防ぐための儀式として特別な花火で御神幸祭が終了します。